

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200382		
法人名	株式会社サンライズ		
事業所名	グループホーム伸&茉衣		
所在地	佐賀県唐津市佐志2119-2		
自己評価作成日	平成30年3月7日	評価結果市町村受理日	平成30年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方の声を聞き逃さず安心して日々を過ごして頂けるよう対応、介護を心掛けている。毎日のバイタルチェック等により体調の変化に気づき訪問看護と連携をとり病状の早期発見に努めている。家族の面会時など近況報告、必要であれば電話等で報告、連絡を行い満足、安心して頂けるような施設を目指しています。利用者の方が施設内においても季節感を味わって頂けるよう飾り付けを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで季節を感じることができる環境にあり、ホーム内は季節感が味わえるように職員と入居者の手作りの装飾がなされている。勤続年数が長い職員が多く、「尊敬・思いやり・やすらぎ」の理念の基、一人ひとりの入居者のケアについて職員間で話し合い支援することで、入居者や家族の安心につながっている。母体の医療機関をはじめ、訪問看護等と連携しており、必要な医療も受けることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	伸	茉衣			伸	茉衣	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊敬・思いやり・安らぎ」のあるグループホームを目指して利用者主体の生活環境作りをスタッフ間で意識付けしている。	「尊敬・思いやり・安らぎ」のあるグループホームを目指して利用者主体の生活環境作りをスタッフ間で意識付けしている。	「尊敬・思いやり・安らぎ」の理念を玄関と各ユニットに掲示し、会議の際に理念に沿ったケアができているかの確認や、入職時に説明することで、職員の意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にある神社の春祭り・敬老会に参加しました。施設の夏祭りに運営推進会議をとおして案内状を送った。民生委員の方の参加はあったが一般の方の参加が出来るまでは現状では見い出せていない。	近隣にある神社の春祭り・敬老会に参加しました。施設の夏祭りに運営推進会議をとおして案内状を送った。民生委員の方の参加はあったが一般の方の参加が出来るまでは現状では見い出せていない。	地域の神社の春祭りや敬老会に参加している。系列事業所へのボランティアの訪問等はあるが、ホームへ足を運ぶ機会は少ない。	地域のボランティアの受け入れなど、地域の方がホームに足を運びやすい取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族には認知症について知っている範囲で話をしている。地域の人には催し事に参加することで徐々にではあるが活かしている。	利用者家族には認知症について知っている範囲で話をしている。地域の人には催し事に参加することで徐々にではあるが活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加頂いている外部の方の意見や助言を参考にし、ホーム内の問題点を見出し、改善していけるように心掛けている。	運営推進会議に参加頂いている外部の方の意見や助言を参考にし、ホーム内の問題点を見出し、改善していけるように心掛けている。	運営推進会議では外部研修会での報告や入居者の近況報告をしている。出た意見は職員間で検討し、ホームの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に出向く事も増え担当者の方にも質問等があれば電話連絡もしくは出向くようにしている。	市役所に出向く事も増え担当者の方にも質問等があれば電話連絡もしくは出向くようにしている。	週1~2回は、市役所に出向き、気軽に相談・助言を得られる関係ができています。また、電話連絡なども密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは身体拘束は行わない。身体拘束排除の理念を掲げており、職員にもしっかり認識してもらう事が出来ている。	当ホームでは身体拘束は行わない。身体拘束排除の理念を掲げており、職員にもしっかり認識してもらう事が出来ている。	身体拘束をしている入居者はいない。「身体的拘束の排除の理念」、マニュアルもあり、系列ホームと合同で年2回は身体拘束についての勉強会を実施し、職員のさらなる理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の講習会・勉強会にて知識を深め、虐待が起こらない・起こさない環境を作るように努めている。	高齢者虐待防止の講習会・勉強会にて知識を深め、虐待が起こらない・起こさない環境を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている利用者の方はいないが学習会等に参加して理解を深めている。	現在成年後見制度を利用されている利用者の方はいないが学習会等に参加して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にじっくり時間をかけて説明を行っている。入居後も家族の方の疑問や質問にはしっかり対応出来るように努めている。	契約時にじっくり時間をかけて説明を行っている。入居後も家族の方の疑問や質問にはしっかり対応出来るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で家族の意見を参加者と話し合う事でより良い施設を作り上げられるように努めている。意見箱を設置している。	運営推進会議の場で家族の意見を参加者と話し合う事でより良い施設を作り上げられるように努めている。意見箱を設置している。	玄関内に意見箱設置しているが、家族の面会の時に直接意見や要望を聞くことができる。出た意見はできるだけ反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特定の時間は設けていないが、質問、意見があればいつでも聞けるようにし、また意見等が運営に反映させるよう努めている。	特定の時間は設けていないが、質問、意見があればいつでも聞けるようにし、また意見等が運営に反映させるよう努めている。	毎日の朝礼、終礼時に職員の意見や提案を聞いている。また、いつでも個別に相談ができるような機会を設け、出た意見は運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情により出来る範囲で勤務時間等の調整が出来ている。個々の努力、能力、実績を把握してもらえる機会も増え各自の向上心につながっている。	職員個々の事情により出来る範囲で勤務時間等の調整が出来ている。個々の努力、能力、実績を把握してもらえる機会も増え各自の向上心につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で管理者ならびに候補者を対象にした勉強会を行っている。	法人内で管理者ならびに候補者を対象にした勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの運営推進会議に出席し情報交換や交流を図っている。	近隣のグループホームの運営推進会議に出席し情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をじっくり傾聴する事や言葉にならない本人の要望や困っている事をしっかり見出し、表情や行動にも注目しながら最大限に対応出来るよう心掛けている。	会話をじっくり傾聴する事や言葉にならない本人の要望や困っている事をしっかり見出し、表情や行動にも注目しながら最大限に対応出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談時、入居後においても家族の要望・質問等には丁寧に答え、安心してもらえるように努めている。職員側から積極的に会話を行うように努めている。	入居前の見学や面談時、入居後においても家族の要望・質問等には丁寧に答え、安心してもらえるように努めている。職員側から積極的に会話を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び利用者本人の意見をまず尊重しその中からニーズに合った支援が出来るよう努めている。	家族及び利用者本人の意見をまず尊重しその中からニーズに合った支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間・365日を共有しながら、時には家族のように時には友人のような関係を築きあげるよう心掛けている。洗濯物をたたんだり利用者の有する能力の範囲内で手伝いをしてもらう事も多い。	24時間・365日を共有しながら、時には家族のように時には友人のような関係を築きあげるよう心掛けている。洗濯物をたたんだり利用者の有する能力の範囲内で手伝いをしてもらう事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りなど家族を交えた行事の参加を呼び掛け、利用者や家族と職員が交流する場を設け、より信頼を深めて行けるように努めている。	夏祭りなど家族を交えた行事の参加を呼び掛け、利用者や家族と職員が交流する場を設け、より信頼を深めて行けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方が面会に来られた折には以降も来ていただけるよう声掛け対応を心掛けている。	知人、友人の方が面会に来られた折には以降も来ていただけるよう声掛け対応を心掛けている。	知人・友人の面会の際は、また来ていただけるよう声掛けを行い、入居者より要望があれば、家族の協力の基、馴染みの場所へドライブに行くなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員が利用者の中に入って良好な関係作りの手助けをしたり、利用者間のトラブルが起きないように支援を行っている。	利用者同士の関係性を把握し、職員が利用者の中に入って良好な関係作りの手助けをしたり、利用者間のトラブルが起きないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退居後であっても法人内の施設や病院で見かけた時は声をかけたり、家族の方と話や相談を受ける事もある。	当ホーム退居後であっても法人内の施設や病院で見かけた時は声をかけたり、家族の方と話や相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話等から利用者の方の気持ちを汲み取り希望や意向の把握に努めている。	日常会話等から利用者の方の気持ちを汲み取り希望や意向の把握に努めている。	入居者の行きたい場所や食事メニューの希望を確認されている。また、困難な場合は、日常会話の中から、意向を確認されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話のなかでこれまでの生活歴を聴いたり、家族の方からの情報をもとに現在の生活の向上に繋がるように心掛けている。	利用者との会話のなかでこれまでの生活歴を聴いたり、家族の方からの情報をもとに現在の生活の向上に繋がるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活からの心身状態の確認やレクリエーション等の余暇活動からも状態を確認し有する能力の把握に努めている。	日常生活からの心身状態の確認やレクリエーション等の余暇活動からも状態を確認し有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼・終礼の申し送り時や業務中においても利用者の些細な事でも気付いた事があれば職員間で周知・検討する。また家族の方の意向を尊重しながら介護計画の充実に努めている。	朝礼・終礼の申し送り時や業務中においても利用者の些細な事でも気付いた事があれば職員間で周知・検討する。また家族の方の意向を尊重しながら介護計画の充実に努めている。	入居者や家族の意向を確認し、目標に沿ったケアの実践に努めている。評価も定期的に行われおり、現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各々に個別記録を作成して日常の気づきや日々の変化を書き込んで介護計画に活用している。	利用者各々に個別記録を作成して日常の気づきや日々の変化を書き込んで介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に様々な施設があり連携・相談・アドバイスをもらいながら利用者のニーズに応じられるように取り組んでいる。	法人内に様々な施設があり連携・相談・アドバイスをもらいながら利用者のニーズに応じられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在、利用者の住んでいた地域との接点が取れなくなってきている。生活の拠点が施設中心となってしまっている現状を改善していきたい。	今現在、利用者の住んでいた地域との接点が取れなくなってきている。生活の拠点が施設中心となってしまっている現状を改善していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は母体の病院で受診をしているが、かかりつけの病院がある場合は継続して受診をしている。	定期的な受診は母体の病院で受診をしているが、かかりつけの病院がある場合は継続して受診をしている。	かかりつけ医を継続することも可能だが、入居時の説明で協力医療機関を選ぶ入居者・家族がほとんどである。協力医療機関への定期的な通院支援を行うなど必要な医療を受けることができる。受診後は家族の面会時や電話で情報共有も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り訪問看護と連携を取っている。基本的には週に1回の訪問ではあるが利用者の急変時に電話連絡で指示を仰いだり、施設に来て対応してもらえる為利用者はもちろん介護職の職員も安心して支援が出来ている。	医療連携体制を取り訪問看護と連携を取っている。基本的には週に2回の訪問ではあるが利用者の急変時に電話連絡で指示を仰いだり、施設に来て対応してもらえる為利用者はもちろん介護職の職員も安心して支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院との連携をとり早期退院が出来るように努めている。また入院中は出来るだけ病院へ出向き利用者の見舞い・病院との情報交換に努めている。	利用者が入院した場合は病院との連携をとり早期退院が出来るように努めている。また入院中は出来るだけ病院へ出向き利用者の見舞い・病院との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は行っていない。法人内の病院にてバックアップ体制をとっている。契約時にその旨を説明している。	終末期は行っていない。法人内の病院にてバックアップ体制をとっている。契約時にその旨を説明している。	入居時に、終末期や重度化した場合の対応について説明を行っている。現在、看取りの支援は行っていないが、重度化する中での医療機関と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の応急救護等の勉強会に参加して緊急時に備えている。	法人内の応急救護等の勉強会に参加して緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。時間帯を変え少人数での対応を重視して行っている。地域への協力要請を運営推進会議等で行っているが現状では得られていない。	毎月避難訓練を行っている。時間帯を変え少人数での対応を重視して行っている。地域への協力要請を運営推進会議等で行っているが現状では得られていない。	毎月、避難訓練を実施しており、災害時の避難場所の確認もしている。運営推進会議に併せて避難訓練を行うなど参加しやすい工夫をしている。しかし、夜勤専門職員の訓練参加には至っていない。また、地域住民が参加しづらい立地となっており、消防団への協力依頼を検討中である。	夜勤専門の職員の避難訓練の参加や、消防団への協力依頼の実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への尊敬の念を持つように心掛け、言葉使いに気をつけている。トイレや入浴時のプライバシーの保護や個人情報の取り扱いにも慎重に気を配っている。	利用者への尊敬の念を持つように心掛け、言葉使いに気をつけている。トイレや入浴時のプライバシーの保護や個人情報の取り扱いにも慎重に気を配っている。	馴染みのある方言で親しみやすさを感じながらも、尊厳を守った声かけをするよう配慮している。個人情報についても、記録物の管理などに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導ではなく、利用者の思いを可能な限り実現出来るように努めている。その都度利用者に合った言葉かけ、対応で本人の思い、希望を抽出出来るように努めている。	職員主導ではなく、利用者の思いを可能な限り実現出来るように努めている。その都度利用者に合った言葉かけ、対応で本人の思い、希望を抽出出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者が中心」であるという考えを常に念頭に置き、職員の都合でなく利用者の意向に沿った支援を行うように努めている。場合によっては予定を変更して利用者の要望に応じられるよう努めている。	「利用者が中心」であるという考えを常に念頭に置き、職員の都合でなく利用者の意向に沿った支援を行うように努めている。場合によっては予定を変更して利用者の要望に応じられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される利用者には床屋に訪問してもらい散髪をしてもらっている。男性は毎朝髭剃りを行っている。	希望される利用者には床屋に訪問してもらい散髪をもらっている。男性は毎朝髭剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は予め決まっているが、状況によって変更する事も多い。利用者の体調に合わせて食事の準備、後片付け等手伝ってもらっている。お菓子作り等にも参加してもらっている。	献立は予め決まっているが、状況によって変更する事も多い。利用者の体調に合わせて食事の準備、後片付け等手伝ってもらっている。お菓子作り等にも参加してもらっている。	管理栄養士が献立を立てており栄養バランスの取れた食事となっている。また、入居者の好みや季節の行事食、一緒に作る手作りおやつなど、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好き嫌いを把握し、個人の摂取出来る食事量を把握し完食を目指している。水分もその日の体調に合わせてお茶ゼリー、トロミを付けたりと多く摂取してもらえるよう努めている。	利用者の好き嫌いを把握し、個人の摂取出来る食事量を把握し完食を目指している。水分もその日の体調に合わせてお茶ゼリー、トロミを付けたりと多く摂取してもらえるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の有する能力に応じて声掛け、半介助、全介助と分けて口腔の清潔を保持出来るように努めている。	利用者の有する能力に応じて声掛け、半介助、全介助と分けて口腔の清潔を保持出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個人個人の排泄パターンを把握し、誘導する時間や言葉掛け、方法を変えている。可能な限りトイレでの排泄を支援するように努めている。	利用者個人個人の排泄パターンを把握し、誘導する時間や言葉掛け、方法を変えている。可能な限りトイレでの排泄を支援するように努めている。	排泄チェック表から排泄の状況を把握し、日中は可能な限りトイレで排泄ができるようにケアすることで、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を配るように努めている。また軽度の運動を取り入れ利用者の方に応じて腹部マッサージ等を行っている。	水分摂取に気を配るように努めている。また軽度の運動を取り入れ利用者の方に応じて腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	基本的にはユニットごとに入浴日は決まっているが利用者のその日の体調に合わせて曜日関係なく対応出来るようしている。(火・木・土)	基本的にはユニットごとに入浴日は決まっているが利用者のその日の体調に合わせて曜日関係なく対応出来るようしている。(月・水・金)	週3回、入浴している。入居者の希望や体調により、順番や入浴日を柔軟の調整することができる。入浴中は会話を楽しんだり、見守りしながら湯栗楽しむなど、入居者の好みに合わせた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせ昼間は出来るだけ起きてもらえるよう夜間良眠してもらえるよう努めているが夜間眠れない場合は無理に入眠を促す事無く職員と話をしたり見守りで対応している。	利用者の体調に合わせ昼間は出来るだけ起きてもらえるよう夜間良眠してもらえるよう努めているが夜間眠れない場合は無理に入眠を促す事無く職員と話をしたり見守りで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や効果についてファイリングして職員が目を通せるようにしており、利用者個人の状況を把握出来るようにしている。誤薬等を防ぐため服薬チェック表を取り入れている。	薬の用法や効果についてファイリングして職員が目を通せるようにしており、利用者個人の状況を把握出来るようにしている。誤薬等を防ぐため服薬チェック表を取り入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やドライブ、また個々の誕生会を行っている。数名の方が中心となり洗濯物の取り入れ、たたむ、振り分けと役割が出来ている。	季節ごとの行事やドライブ、また個々の誕生会を行っている。数名の方が中心となり洗濯物の取り入れ、たたむ、振り分けと役割が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に周辺を散歩したり、要望があれば買い物にいたりしている。家族の方と外出、外泊される利用者の方もいる。またその折送迎が必要であれば行っている。	職員と一緒に周辺を散歩したり、要望があれば買い物にいたりしている。家族の方と外出、外泊される利用者の方もいる。またその折送迎が必要であれば行っている。	月1回、季節の花見やドライブなどの外出している。また、天候が良いときは、職員と一緒に敷地内のバラ園を散歩したり、日光浴をするなど外に出る機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価(伸)	自己評価(茉衣)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者がお金を持つ場合は小銭程度であり、本人希望に応じて金額が多い場合は家族等の了解を得て使用出来るよう努めている。	基本的には利用者がお金を持つ場合は小銭程度であり、本人希望に応じて金額が多い場合は家族等の了解を得て使用出来るよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で家族へ電話される事がある。遠方にいる家族から手紙が届く利用者もいる。	利用者の希望で家族へ電話される事がある。遠方にいる家族から手紙が届く利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせた室温の調整や湿度に気を付け、テレビ等の音量にも配慮するように努めている。季節を感じてもらえるような飾り等、また草花を飾っている。	利用者に合わせた室温の調整や湿度に気を付け、テレビ等の音量にも配慮するように努めている。季節を感じてもらえるような飾り等、また草花を飾っている。	空調調整や加湿器などにより、適切な温度・湿度管理をし、換気や掃除も行き届いている。入居者と一緒に行った季節の飾りや写真の掲示があり、ホーム内でも季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の前に椅子を置いたりテレビ前にソファを置いて独りでゆっくり過ごしたり気の合った利用者同士で寛げるようにしている。場合によっては椅子等の配置を変えたりもしている。	玄関の前に椅子を置いたりテレビ前にソファを置いて独りでゆっくり過ごしたり気の合った利用者同士で寛げるようにしている。場合によっては椅子等の配置を変えたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や小物等は利用者が自宅で使用していた馴染みの物を置いてもらい利用者本人が落ち着いて生活出来るようにしている。	家具や小物等は利用者が自宅で使用していた馴染みの物を置いてもらい利用者本人が落ち着いて生活出来るようにしている。	仏壇や馴染みの家具など自由に持ち込むことができる。家具の配置については、本人・家族と入居者の状況に合わせて、安心して過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・浴室には手すりを付けて利用者の安全に注意を払っている。利用者個人の有する能力を活かし出来る事を奪う介護は行わないように努めている。	リビング・トイレ・浴室には手すりを付けて利用者の安全に注意を払っている。利用者個人の有する能力を活かし出来る事を奪う介護は行わないように努めている。		